
僕のはなしを、きいてくれる？ episode005

夏山 僕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

僕のはなしを、きいてくれる？ episode005

【コード】

N9336N

【作者名】

夏山 僕

【あらすじ】

僕に話しかけてくる「僕」の正体は……。第五話

暑い……。

昨日、夜更かしてしまつたから、今日は思いっきり朝寝坊しようと思つていたのに

あまりに暑くて目が覚めた。

僕は夏の夜、どうでもいい、無地の、首の所がだらーんとしたボロボロのTシャツに

ローライズのボクサーパンツ一丁という格好で寝る。

そんな格好で寝ているのに、朝、目が覚めたら、体中汗だくになっている。

エアコンは、クーラー病になるからつけない主義だ。それにエコじゃない……。

というのは言い訳で、電気代が勿体ないからつけない。

ま、元々この部屋にはエアコンがついてないんだけどもね。

しかしまあ、暑い。

僕は少しでも暑さを紛らわすため、

そしてダラダラにかいた汗を流すため、風呂に入ることにした。

風呂と言つても2畳もないトイレ一体型のユニットバスだけどもね……。

考え事をするでもしないでもなくシャワーを浴びていると、

外から「プープー」という音が聞こえてきた。

何の音だろうと耳を澄ましてみると、その「プープー」はメロディを奏で曲になつてきた。

「ププ、ププ、プププー。ププ、ププ、プププー……。」

これって「きらきら星」って曲だったよな……。確か子供のころ初めて習った曲だったよな……。あ、そうか。これはメロディオンの音だな……。なんだか懐かしい。

そういえば、僕も持ってたな。小学校卒業した時にもらったやつ。もらったというか、学校に置きっぱなしのを持って帰ってきたやつ。

僕は風呂から出ると、押入れの中にある「大事な物入れ」のダンボールを出して

メロディオンを探した。

水色をしたそのケースはすぐに見つかった。

恐る恐る何十年かぶりにそのケースを開けると、

僕が最後にあげた何十年か前と同じ格好をしていた。

ふたの部分にくっついたホースのようなもの。縦持ちする用のアタツチメント。

そして、鍵盤の下と上の「ド」の部分にくっついた赤い、丸いシール。

ちよつと鳴らしてみようかな……。とホースを繋げて黒い部分をくわえてみようとしたら

なんだかカビ臭いにおいがした。

どうしようか悩んでいると突然、どこからともなく声が聞こえてきた。

「ねえねえ、おぢさん。僕の話聞いてくれる？」

僕は、いつものだろうと思いつつながらメロディオンを見ると、やっぱり

りそうだった。

『君だね。メロディオン君。僕はメロディオンと話したことはないけれど……』』

と言いかけるとメロディオンは僕の言葉を遮って言った。

「昔は話してたよね。おぢさんがまだ、おぢさんじゃない頃、よく話してたよね。」

『え？僕は子供の頃、君とよく話してたの？』

「うん。いっぱい話したよ。覚えてないの？」

僕は子供のころを思い出そうとした。

でも、どんなに頭を働かせても思い出せなかった。

「ま、いいよ。それと……。あのね、僕は確かにメロディオンなんだけど」

それは商品名なんだ。正式には鍵盤ハーモニカって言うんだよ。」

『あ、そっか。それは聞いたことある。』

「メロディオンの他にもピアノカっていうのもあるし、ピアノっていうのもあるんだ。」

『ピアノカはきいたことあるかも。しかし懐かしいな。よく君のホースを振り回してたっけ。』

「ホースを振り回すと唾が飛ぶから気をつけてね。」

それと、好きな女の子のホースを放課後にこっそり舐めるのも良くないよ。

その子に虫歯をうつしたくないならね。あ、たて笛も舐めちゃだめだよ。」

『ぼ、僕はそんなこと、し、してないって！……もしかしてしてたの？記憶がないから……』

「おぢさんはしてなかったと思うよ。どっちかっていうとされてたかな……。」

『あ？されてた？されてたって女の子に舐められてたってこと？』

「うん。たしか……。」

『ええ〜？だれ？だれ？ねえ教えて！』

「確か名前は、ま．．．。」

「ププププププ〜。ププププププ〜。」

さつき外から聞こえてきた鍵盤ハーモニカの音がまたした。

今度はかえるの歌のようだった。

『で？名前は？』

「．．．．．。」

鍵盤ハーモニカはもう喋らなくなっていた。

「ま．．．。」誰だろう．．．。

僕の初恋の相手の真里ちゃんだったらしいのにな．．．。と思った。

しかし、気付けばまた汗だくになっていた。

僕は鍵盤ハーモニカを相手に、相当必死になってたんだろうな。

これじゃあモテないわけだ。過去の、子供の頃の話に必死になって．．．。

少しは表にでもでるか．．．。そして健康的に日に焼けたりしてみるか．．．。

僕は東西線に乗って葛西へ向かった。

あそこの公園なら裸になっても恥ずかしくないだろう。

ま、体型はオヤジっぽくて、ちょっと恥ずかしいんだけどね．．．。

つづく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9336n/>

僕のはなしを、きいてくれる？ episode005

2010年10月12日02時17分発行